

全国高校日语专业基础阶段阅读教材
辽宁省高等教育自学考试指定用书

日

语

读解技能训练

主编◎刘金钊

にほんこ

 大连出版社
DALIAN PUBLISHING HOUSE

日语 读解技能训

にほんご

© 刘金钊 2010

图书在版编目(CIP)数据

日语读解技能训练 / 刘金钊主编. —大连:大连出版社, 2010. 11

ISBN 978-7-80684-830-2

I. ①日… II. ①刘… III. ①日语—阅读教学—自学考试—教材
IV. ①H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 202144 号

出版人:刘明辉
策划编辑:李 岩
责任编辑:李 岩 张 岚
封面设计:林 洋
版式设计:张 岚
责任校对:李方方
责任印制:阎 骋

出版发行者:大连出版社

地址:大连市西岗区长白街 12 号

邮编:116011

电话:0411-83627012 83620941

传真:0411-83627012

<http://www.dlmpm.com>

E-mail:zlwfd@163.com

印刷者:大连美跃彩色印刷有限公司

经 销 者:各地新华书店

幅面尺寸:185 mm×260 mm

印 张:29.5

字 数:350 千字

出版时间:2010 年 11 月第 1 版

印刷时间:2010 年 11 月第 1 次印刷

印 数:1~3000 册

书 号:ISBN 978-7-80684-830-2

定 价:39.00 元

前言

はじめに

在外语教育中,围绕听、说、读、写、译五项基本技能究竟何为重要的问题,始终众说纷纭,至今没有得出一个统一的结论。

近年来,世界各国之间的友好往来日益频繁,直接的语言交际势必要求我们要具备较高水平的听、说能力。于是,“听说领先”的外语教学、学习原则,日益受到教师和学生的普遍承认和重视,“哑巴外语”也不断受到批评。

笔者也十分赞同“听说领先”的教学原则。但是,“听说领先”教学法是否是外语教育的全部?过分地强调“听说领先”,从而忽视对学生读、写、译技能的训练和培养是否合适?这个问题很值得探讨。

外语是一门学问,同时也是传达思想、表达意愿的工具。复杂的心理活动,微妙的语言现象,只做到能听懂、会表达是否就足够了呢?很显然,只靠听、说是不够的。

大家知道,语言包括口语语言和书面语言两种形式。尤其是日语,口语语言和书面语言界线比较明显,特点更为突出。听和说基本都属于口语语言范围,在这种意义上讲,听得懂、说得明白,这只能说仅仅掌握了语言的一部分。书面语言不同于口语语言,在语法、句型、词汇等方面都有它独自的规律和特点。一个好的外语工作者,也必须做到熟练地掌握和运用书面语言。

学习外语应该从实际需要出发。实际工作常常要求我们进行直接语言交际,不会说、听不懂当然是不行的。实际工作还常常要求我们进行间接的语言交际,即靠文字而不是靠声音进行交际。可以这样说,重要事项往往都是靠文字(书面语言)而不是靠声音(口语语言)传达的。日本的外语教育,十分重视文章的阅读理解,这是有其道理的。

本书的编写目的,旨在提高学生的文章读解能力。全书分为「基本技術編」和「実戦編」两大部分。「基本技術編」分为25个专题,每个专题通过简明的讲解和练习,全面培养和训练文章读解技巧。「実戦編」中,精选了88篇相当于日语能力测试N1、N2级水平的练习题。所选文章题材广泛,内容丰富,实用性、趣味性、知识性强。相信通过大量的读解练习,不仅会逐步提高文章的读解能力,而且还会从中学到许多新知识。

本书在编写过程中,参考了大量日本最新出版的有关日语能力测试读解方面的习题集,可以说《日语读解技能训练》是一部比较全面的综合读解技能训练教程,是提高文章读解能力,参加日语能力测试的必备教材。

编者

2010年10月

目 录

◀ もくじ

基本技術編

ステップ[1]	それはだれのこと	3
ステップ[2]	それはいつのこと	6
ステップ[3]	どんな気持ち	9
ステップ[4]	()の中に入るのは	12
ステップ[5]	何を言いたいのか	25
ステップ[6]	答えは文章の中に書いてある	28
ステップ[7]	「これ」「それ」—1	31
ステップ[8]	「これ」「それ」—2	34
ステップ[9]	「これ」「それ」—3	36
ステップ[10]	結論をさがせ	39
ステップ[11]	たとえと本論の区別	51
ステップ[12]	意見を言いたいときの疑問文	54
ステップ[13]	否定「ない」に注意	57
ステップ[14]	文の骨組み	61
ステップ[15]	省略	64
ステップ[16]	グラフを読む—1	67
ステップ[17]	グラフを読む—2	70
ステップ[18]	文と文とをつなぐことば(接続詞・接続詞的表現)	75
ステップ[19]	長文によく使われる表現—1	77
ステップ[20]	長文によく使われる表現—2	80
ステップ[21]	キーワード探し	82
ステップ[22]	文・段落の並べ換え	85
ステップ[23]	正誤問題	88
ステップ[24]	次に続く内容を予測する	92
ステップ[25]	主題・大意・要点をつかむ	104



第二部 実戦編

長文の読み方.....	123
練習 1	127
練習 2	130
練習 3	133
練習 4	136
練習 5	139
練習 6	142
練習 7	145
練習 8	148
練習 9	151
練習 10	155
練習 11	159
練習 12	162
練習 13	165
練習 14	168
練習 15	171
練習 16	175
練習 17	179
練習 18	183
練習 19	187
練習 20	191
練習 21	194
練習 22	197
練習 23	201
練習 24	204
練習 25	208
練習 26	212
練習 27	215



練習 28	219
練習 29	223
練習 30	226
練習 31	230
練習 32	235
練習 33	239
練習 34	243
練習 35	246
練習 36	251
練習 37	254
練習 38	258
練習 39	261
練習 40	264
練習 41	268
練習 42	272
練習 43	276
練習 44	279
練習 45	282
練習 46	286
練習 47	290
練習 48	293
練習 49	297
練習 50	300
練習 51	303
練習 52	307
練習 53	311
練習 54	315
練習 55	319
練習 56	323
練習 57	326
練習 58	330

練習 59	335
練習 60	340
練習 61	344
練習 62	348
練習 63	352
練習 64	357
練習 65	361
練習 66	364
練習 67	368
練習 68	372
練習 69	376
練習 70	379
練習 71	383
練習 72	387
練習 73	390
練習 74	393
練習 75	397
練習 76	400
練習 77	404
練習 78	408
練習 79	411
練習 80	414
練習 81	418
練習 82	422
練習 83	425
練習 84	429
練習 85	433
練習 86	436
練習 87	441
練習 88	445
解答編	449

第一部

✿ 基本技術編

ステップ[1] それはだれのこと



文章に主語が表れているかどうかに注意!

△主語が離れている場合

「～は…である」という文型に注意!

△主語が表れていない場合

主語が「私」「自分」「著者」であることが多い。

△何人か人物が出てくる場合

人物の関係や時の流れに注意!

● 練習 1

あの女はあの男が自殺を図った事件に首を突っ込まなかったから、無事だったんだ。

【問い】「無事だった」とあるが、だれが無事だったか。

(1)あの女

(2)あの男

● 練習 2

他人の意見より自分の意見の方が正しいと思いがちである。しかし自分の意見は、思うほど正しくないことも多い。

【問い】「思う」とあるが、だれが思うのか

(1)他人

(2)自分

● 練習 3

私は講演を頼まれた時、自分の経験をよく話すのだが、その話が、聞く側にとって魅力あるものであることがわかれば、内に隠れていた体験や経験が次から次へとわき出てくるのである。その結果、講演のテーマと大幅にずれ、関係者をあわてさせることがよくある。

【問い】「わかれば」とあるが、だれがわかるのか。

(1)話している自分

(2)話を聞いている人

(3)関係者

(4)話している自分とそれを聞いている人

● 練習 4

ばくが相撲に興味を持ったのはいつ頃のことであろうか。父親が大の相撲好きと

あって、物心がついたときから力士の名前を口にし、テレビの前で応援していたものだ。ぼくは強い力士が好きだった。大鵬の大ファンであった。とにかく大鵬は強かった。大鵬の引退後、この上なく強いと思われた北の湖が現れたが、ぼくの心の中では大鵬が強かった。強さと容姿を兼ね備えた千代の富士が出てきたとき、確かにかっこいいと思ったが、ぼくの思う強さではなかった。そしてぼくと親子ほど年の違う貴乃花が出てくるまで、大鵬に勝つ力士はもう現れないと思っていたのだった。今、胸が高鳴るほど相撲が楽しい。

【問い】筆者は今、どの力士がいちばん好きか。

- | | |
|----------|--------|
| (1)大鵬 | (2)北の湖 |
| (3)千代の富士 | (4)貴乃花 |



重要な言葉

1. 図る(はかる)
実行しようとする。たくらむ。
2. 首を突っ込む(くびをつっこむ)
深くそのことに関係する。
○ 頭を～。
○ 足を～。
3. ずれる
本来あるべき位置から少し移動して外れる。感覚や考え方などが他の人と隔たりがある。
○ ～れている人。
○ 話が～。
○ 印刷が～。
4. 慌てる(あわてる)
落ち着きを失って行動する。うろたえる。まごつく。
○ 突然の来客に～。
○ 秘密がばれて～。
5. 物心がつく(ものごころがつく)
子供が、世の中の裏表やデリケートな人間関係や人の気持ちなどについて分かり始める。
6. 格好(かっこう)
姿、形、様子、体裁、体面。俗に「かっこ」ともいう。
○ ～がいい(悪い)。
○ ～をつける(～がつく)。
○ ～いいスタイルの女性。
○ ～いいスポーツカー。

7. 胸が高鳴る(むねがたかなる)

喜びや期待に心が弾み、わくわくする。



重要な文法・表現

1. ～がち

名詞・動詞連用形について、そのようになったりする割合が普通より多い様子。多く好ましくないことについて言う。

(1) 私は子供のころ、病気がちでした。

(2) 近ごろ彼は授業を休みがちだ。

(3) 最近では天気がよくないせいか気分が沈みがちです。

(4) 最近くもりがちの天気が続いている。

(5) 一人暮らしは食事を作るのが面倒で、ついインスタント食品にたよりがちになる。

2. ～とあって

「……という状況なので」という意味を表す。特別の状況の場合に用いられ、後にその状況で当然起こる事柄や取るべき行動を述べるという含みがある。書き言葉で、ニュースなどで使う。

(1) 皇太子夫妻が通るとあって、沿道は国旗を持った人でいっぱいだ。

(2) 一年に一回のお祭りとあって、村の人はみんな神社へ集まっていた。

(3) 名画が無料で見られるとあって、席ははやばやと埋まってしまった。

(4) クラス全員が志望校に合格したとあって、先生はとてもうれしそうだ。

(5) 今日は三連休とあって、全国の行楽地は家族連れの観光客で賑わった。

3. ～たものだ

過去において、習慣的に行われていたことを感概をこめて回想するのに用いる。

(1) 学生のころはよく貧乏旅行をしたものだ。

(2) 小さい頃はよくみんなで近くの森へ遊びに行ったものだ。

(3) 小学校時代、彼のいたずらには、先生たちが手を焼いたものだ。

(4) 彼は若い頃は周りの人とよくけんかをしたものだが、今はすっかりおだやかになった。

ステップ[2] それはいつのこと



実際に起きたことかどうか考える

△ 仮定法の中の「時」に注意!

もし、当時、あなたが困っているということを知っていたら

「実は、知らなかった」

私は、助けることができたのに…。

「実は、助けることができなかった」

△ 話の流れに注意!

● 練習 1

事件が起きうる可能性を予測しながら、放置してきた大人たちが非難されるべきだ。

【問い】「事件」とあるが、事件はもう起きたのか、まだ起きていないのか。

(1) まだ起きていない

(2) もう起きた

● 練習 2

自分の夢を実現するために、私はあらゆる努力をも惜しまなかった。しかし、夢が実現するどころか、年を経るごとに、私は絶望の境地に陥っていったのだ。あの時あきらめていたら、今の私はなかったであろう。

【問い】「自分の夢」とあるが、その夢は実現したのか。

(1) 実現しなかった

(2) 実現した

● 練習 3

電話を前にして、彼女にぼくの恋心を告げるべきかどうか、非常に心が揺れていた。昔のぼくだったら、ためらいもせず告白しただろうに。今回ほど断られることがこわいと思うことはない。電話番号を聞く勇気はあったじゃないか、軽く映画にでも誘えばいいじゃないか、と言い聞かせながら、今日もまた時間が過ぎていった。

【問い】実際に起きたことはどれか。

(1) ぼくは彼女に電話をした。

(2) ぼくは彼女に自分の気持ちを伝えた。

(3) ぼくは彼女に電話番号を聞いた。

(4) ぼくは彼女を映画に誘った。

● 練習 4

子どもの頃、よく図書館へ行って本を借りたものだ。自分では楽しんで本を読んでいるという意識はなかった。読み終えた本を返しに行くところに、当然のことだが、未知の本があり、それをまた借りる、ということを繰り返していたのだ。中学に入学した頃からは、学校のレポート提出などのためにしか、読書することがなかった。それは一種の作業のようなものであった。社会人になってから、読みたい本ぐらいいくらでも買えるようになったが、仕事絡みで必要に迫られてのことが多い。今思うと、図書館通いをしていたあの頃が、本当に読書を楽しんでいたと言えるのかもしれない。

【問い】筆者が本当に読書を楽しんでいたと思われるのはいつか。

- (1)子どもの頃
- (2)子どもの時からずっと今も
- (3)中学生の頃
- (4)仕事するようになってから



重要な言葉

1. 惜しむ(おしむ)

少しでもむだにならないように大切に使う。使うのをいやがる。

- 寸暇を～。
- 命を～。
- お金を～。
- 労を～。
- 別れを～。
- 故人を～。

2. 陥いる(おちいる)

救いようのない状態にはまり込む。

- 危篤に～。
- 破局に～。
- 穴に～。

3. 揺れる(ゆれる)

左右・上下に動いていて、不安定な状態にある。

- 船が～。
- ふらんこが～。
- 考えが～。
- 日本語が～。
- 気持ちが～。

4. ためらう。

決心がつかず、行動に移せない。



○ 返答を～。

5. 仕事絡み(しごとからみ)

仕事に関係して。

6. 必要に迫られて(ひつようにせまられて)

必要でどうしてもしなければならなくて。



重要な文法・表現

1. ～うる

することができる。する可能性がある。

(1)それは考えうる話だ。

(2)まだ調査中なので、発表しうる段階ではない。

(3)全科目満点というのも、彼ならありうる。

(4)その絵のすばらしさは、とても言葉で表しうるものではない。

2. ～どころか

接続助詞。体言・活用語の終止形に下接する。前件を否定し、否定することによって後件を強調する関係を表す。

(1)忘れられないどころか、日増しに思いは募る。

(2)子供どころか、大人が大喜び。

(3)パチンコでもうけようとしたが、もうけるどころか大損をした。

(4)やせようと思ってジョギングを始めたが、食欲が出てやせるどころか太ってしまった。

(5)登山に行くというのに、食べ物どころか、水も持たずに出かけた。

3. ～ごとに

名詞・動詞の連体形について、「そのたびに」「その都度」という意味を表す。

(1)会う人ごとに会釈する。

(2)事あるごとに相談に来る。

(3)このめざまし時計は5分ごとに鳴る。

(4)子供というものは、見るごとに大きくなっていくものだ。

4. ～ほど～はない(いない)

ある事柄を例示し、動作・状態の程度を表す。最も程度の甚だしいことを言う。

(1)君ほど素直な人はいない。

(2)これほどうれしいことはない。

(3)試験ほどこいやなものはない。

(4)東京ほど家賃の高いところはない。

ステップ[3] どんな気持ち



表情、感情を表すことばを見つける

△ 次のようなことばに注意!

表面
外見
一見

→ 実は心の中は違う

内心
本心

→ 外には反対の形で表われる

● 練習 1

彼は、娘が留学をあきらめずにいることを知って、ため息をついた。

【問い】彼の気持ちは次のどれに近いか。

(1)うれしい

(2)うれしくない

● 練習 2

彼女は、上司にどんな命令をされようとも、いやな顔ひとつせず従った。しかも表面的には楽しそうに仕事していたので、同僚の絵里子を除いてだれも、彼女の本心はわからなかった。

【問い】「彼女の本心」とは、ここではどのようなことか。

(1)仕事をいやだと思っている。

(2)仕事を楽しいと思っている。

● 練習 3

あるボランティアの人の話では、最初は涙を流して感謝されたことであっても、時間がたつにつれ、ボランティアを受ける側にとってそうされることが当たり前となり、最後には手伝っている側がむっとするようなことがよくあるそうだ。そのような経験がボランティアの長続きを妨げているのだという。

【問い】この場合のボランティアをする人たちの気持ちは次のどれに近いか。

(1)いやなこともあるが、ボランティアをすることは自分にとって大切だ。

(2)ボランティアといっても、相手にいやがられることが多く、悲しい。

(3)結局いやな気持ちにさせられることが多く、ボランティアを続けたくない。

(4)自分にはボランティアの仕事は向いていないと思う。

● 練習 4

人間には、わからないことや知らないことがあって当然である。ただ私のわからないことや知らないことは、世間では常識的なことが多いように感じる。だから、それがみんなが知っていることだということがわかれば、つい、わかったふりをしてしまう。どうして「わからない」「知らない」と言えないのか。自尊心が強いからだというより、物事に対してあまりにも鈍感である自分をさらけ出したくないのである。素直になりたいものである。

【問い】筆者がいちばん言いたい気持ちは次のどれか。

- (1) 常識的なことは知っておきたい。
- (2) 他人に自分がわからないということを知られたくない。
- (3) わからないことは「わからない」と言いたい。
- (4) 物事に対して敏感でありたい。



重要な言葉

(1) ため息をつく(ためいきをつく)

心配(失望)したり、自分の力ではとうていかなわないと思ったりする時などに大きく息をつく。

(2) むっとする

突然感じる怒りや不快感を表情にあらわにした様。

(3) 妨げる(さまたげる)

物事の進行や行為の邪魔をする。妨害する。

○ 睡眠を～。

○ 子供の成長を～。

(4) さらけ出す(さらけだす)

隠さずすっかり出す。ありのままに見せる。

○ 真実を～。

○ 欠点を～。

(5) 鈍感(どんかん)

感覚や物事に対する感じ方が鈍いこと。



重要な文法・表現

1. ～(う)ようとも

「…にかかわりなく、どんなことになろうとも」の意味を表す。

(1) どんなに叱られようとも、やめない。

(2) 両親に反対されようとも、彼女と結婚するつもりだ。

(3) たとえ失敗しようとも、やると決めたことは実行する。